

室生の「生き抜いた景観」の再発見・活用研究会

最終報告 (2025.4.12)

- 高木 悠里 (大阪公立大学大学院工学研究科 講師)
- 西野 雄一郎 (大阪公立大学大学院工学研究科 講師)
- 山口 陽登 (大阪公立大学大学院工学研究科 講師)
- 須崎 心一 (元・大阪公立大学大学院工学研究科 博士前期課程)
- 白井 柊羽 (元・大阪公立大学大学院工学研究科 博士前期課程)
- 神田 昂彦 (元・大阪公立大学大学院工学研究科 博士前期課程)
- 甲賀 晶子 (宇陀市建設部参事・まちづくり推進担当/市長公室参事)
- 森本 陽子 (宇陀市建設部まちづくり推進課 主任)



1. 対象：奈良県宇陀市・室生



2. 研究会の概要

【問題意識・目的】

- 室生は、火山活動による独特の地形を有し、古代からの山岳信仰の中で栄えてきた。
- 室生の景観は、災害、産業構造の変化、門前町の盛衰等のなかで、変化し続けてきた。
- 室生の景観を「歴史的町並み」や「文化的景観」と呼ぶことは難しいかもしれない。しかし、独特の地形からなる室生の景観、地形と密接不可分の信仰を表す景観、寂れつつあるが味わい深い門前町の景観は、この地域ならではの価値高いものではなからうか。
- 本研究会は、室生の景観を「生き抜いた景観」と捉え、その再発見・活用に取り組む。

【2023年度の成果】

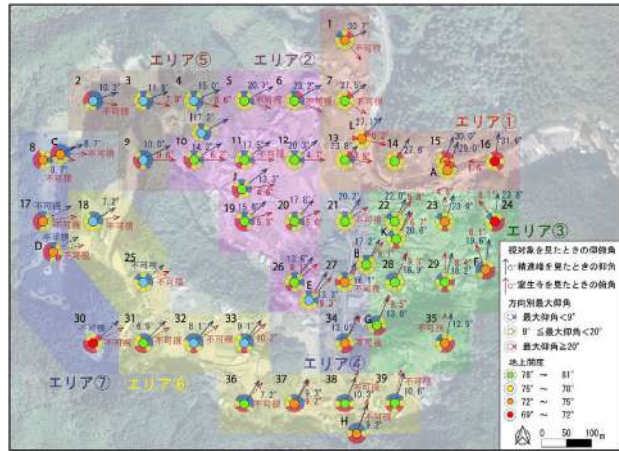
- 地形に着目し、「困繞」と「眺望」の観点から、室生集落の代表的視点場における景観ポテンシャルを分析
- 門前町空店舗(1件)の利活用検討、門前町観光マップを作成

【2024年度の成果】

- 室生の景観を、視覚的特徴(=地形)、歴史的特徴(=土地利用の履歴)、社会的特徴(住民意識)から評価し、これらの相互関係を解明し、室生の「生き抜いた景観」を価値づける
- 室生町観光マップのPR

2023年度の成果

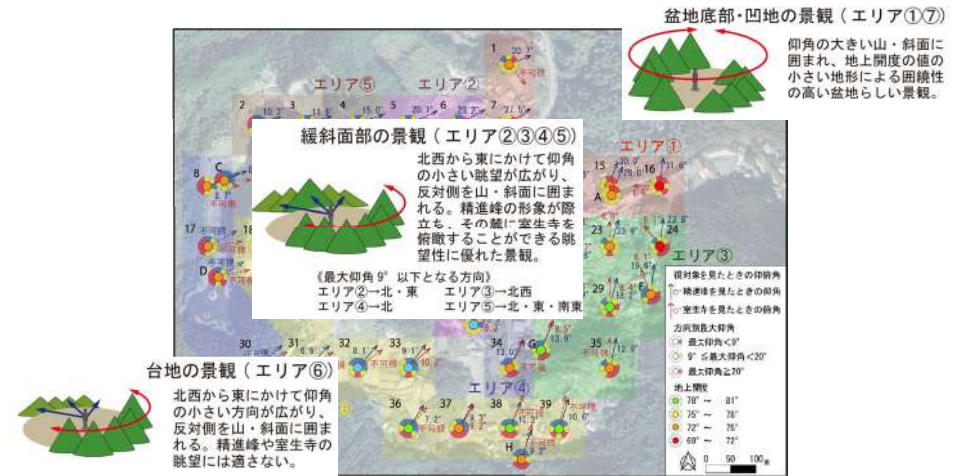
地形に着目した室生集落の景観ポテンシャル分析、門前町観光マップの作成



5

地形に着目した室生集落の景観ポテンシャル分析
結果の概要

6



2023年度：作製 → 2024年度：増刷，設置場所の増加

7



2024年度の成果

室生の「生き抜いた景観」の解明と価値づけ

8

【目的】

「室生の生き抜いた景観」の特徴を明確化し、価値づける(⇒観光資源化を見据える)

景観を価値づける観点：眼前の 視覚像 + それを成立させる 歴史的・社会的 文脈が重要

参考 後藤晴彦「景観まちづくり論(2007)」, 日本建築学会「生活景(2009)」

【方法】

○視覚的特徴：地形 ... 圍繞：地上開度 / 眺望：主要視対象への仰観・俯瞰の調査

○歴史的特徴：土地利用の履歴 ... 各種年代の地図・地形図の調査

○社会的特徴：居住者の意識 ... 住民アンケート調査(＋文献・資料調査等)

3つの観点から、室生の景観の解明と価値づけを試みる

室生集落の概要

9

○「室生（ムロウ）」の名称

- ・太古より「室生(ムロウ)」の地名が存在。「ムロ」の原義は「氷室」「岩室」などの「ムロ」で、一種の「窪(あなぐら)」。「ムロウ」は火山地帯の特異な地質や岩穴の存在に因む地形名とされる。
- ・「ムロ」「ミムロ」は、書記・万葉集等にもみられる地名で、神のいる場所・神聖地の意味でもある。

○龍神信仰と室生寺、龍穴神社

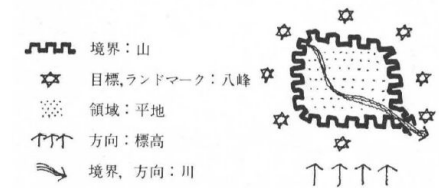
- ・太古より神聖地とされ、室生川とその支流を重要な水源とし、水神信仰の場となる。
- ・奈良時代の頃、大陸の風水思想(竜の思想)が伝来、火山地帯の奇石洞窟と結びつき、龍神信仰が盛んになり、参籠祈雨(雨ごい)の霊場として認識されるようになる。
- ・奈良時代末、桓武天皇の病氣平癒のため浄行僧が室生で延寿法を修する。これを契機に室生寺が創建。かつて室生寺は「室生山寺」と呼ばれる。室生山は室生寺の山号(屋号)で辺りの山峰の名でもある。
- ・同じ頃、龍神信仰が火山地帯の奇石洞窟を「吉祥龍穴」に見立てて、龍穴神社が創建される。

○密教思想と室生寺

- ・創立当初は、法相宗興福寺の統治下に入る。
- ・室町時代以降、宗派間の紛争、信長・秀吉の介入(検地による領地削減)により興福寺派の力が弱まり、真言宗(密教)の勢力が入る。その後は真言宗長谷寺の末寺を経て、真言宗室生寺派の総本山となる。
- ・「八葉蓮華」：花卉が八枚ある蓮華の中央に大日如来、八葉に四仏四菩薩を描いた真言密教の曼陀羅図。



曼陀羅中台八葉（教王護国寺）



八葉蓮華の空間構造（樋口忠彦「景観の構造」）

※山峰を八葉に見立てて中心に社寺を配置する空間構成は、密教系寺院等でみられる

10

室生集落の概要

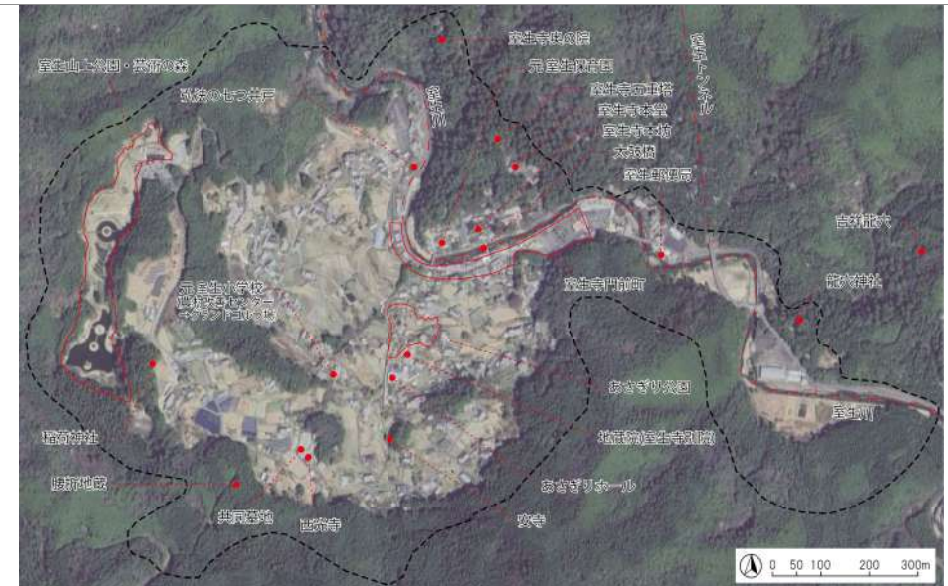
11

○集落の成り立ち

- ・弥生時代から人が住み始めた。(荷ノ出垣内：集落の南側、斜面中腹から土器出土)
- ・中世の頃、室生寺周辺は荘園(室生庄)であった。
- ・近世に入って、山間の自然湧水を利用して棚田的な田地造成がはじまる。
- ・江戸時代には幕領地、明治維新後は室生集落と南側の田口・下田口等の集落を併せて室生村が発足

○近代以降の出来事

- ・1879年 室生小学校 開校 (～1967 閉校 → 農村改善センター → グランドゴルフ場に転用)
- ・1945年頃 疎開により人口ピーク(統計データなし、→ 終戦後は人口流出が続く)
- ・1959年 伊勢湾台風、室生川沿岸を中心に甚大な被害を受ける
- ・1960年頃 室生寺参拝客が増加し門前に商店が増加、集落の住宅は近代化が進む
- ・1963年 室生保育所(室生寺敷地内) 開設 (～2001 閉鎖)
- ・1980年頃 室生寺及び門前町の観光客がピーク(統計データなし)
- ・1985年 室生地区地すべり対策事業 (～1992)
- ・1997年 むろうアルカディア計画策定 (→1999 あさぎりホール完成, 2001 あさぎり公園 開園)
- ・1998年 台風7号、室生寺五重塔が倒壊 (→ 2000 修繕)
- ・2003年 室生トンネル開通
- ・2006年 室生山上公園・芸術の森 開園



12

視覚的特徴：囲繞と眺望

13

○使用したデータ

- ・基盤地図情報数値標高モデル：10 mメッシュ標高データ（国土地理院）

○囲繞の分析方法：仰角，地上開度

- ・全てのメッシュにおいて，距離3 km 範囲内における八方位ごと最大仰角と，地上開度を算出
- ・最大仰角9° 以上となる方位数を算出（最小0～最大8）
- ・地上開度を算出：[90° - 最大仰角平均値]（開度 大=開けた空間，開度 小 = 囲まれた空間）

※仰角9° 以上：山を眺めるのに程よい角度，仰角9° の空間は囲繞性の基準

○眺望性の分析方法：仰角，地上開度

- ・仰観の視対象として室生を囲む9つの峰，俯瞰の視対象として室生寺(本坊)を設定
- ・全てのメッシュにおいて，全9峰への仰角・可視不可視，室生寺への俯角・可視不可視を算出
- ・仰観：全9峰又は精進峰(代表的な峰)を仰角9° 以上で眺められる視点場(=メッシュ)を算出
- ・俯瞰：室生寺を俯角10° 近傍で眺められる視点場(=メッシュ)を算出

※俯角10° 近傍：最も見下ろしやすく眺めやすい領域

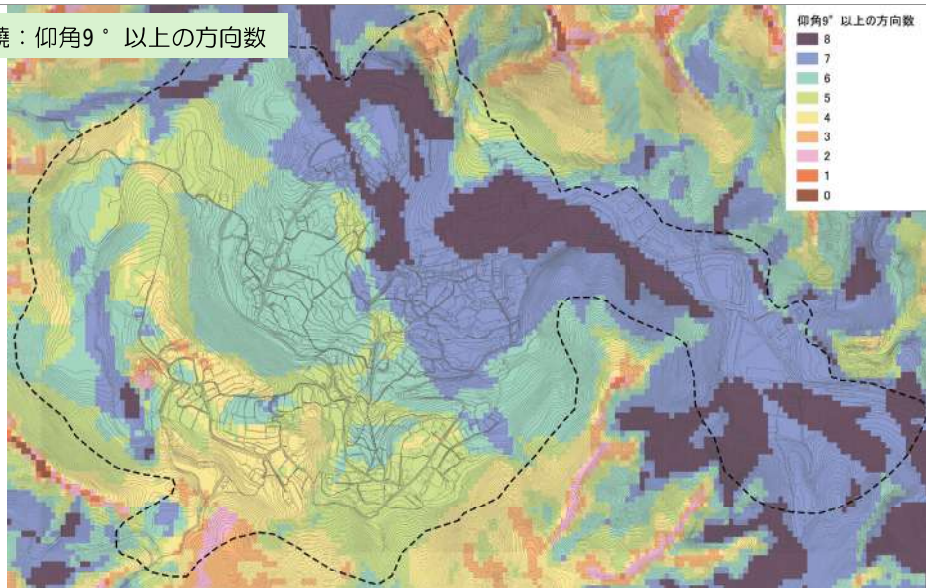
眺望(仰観)の視対象の位置

14



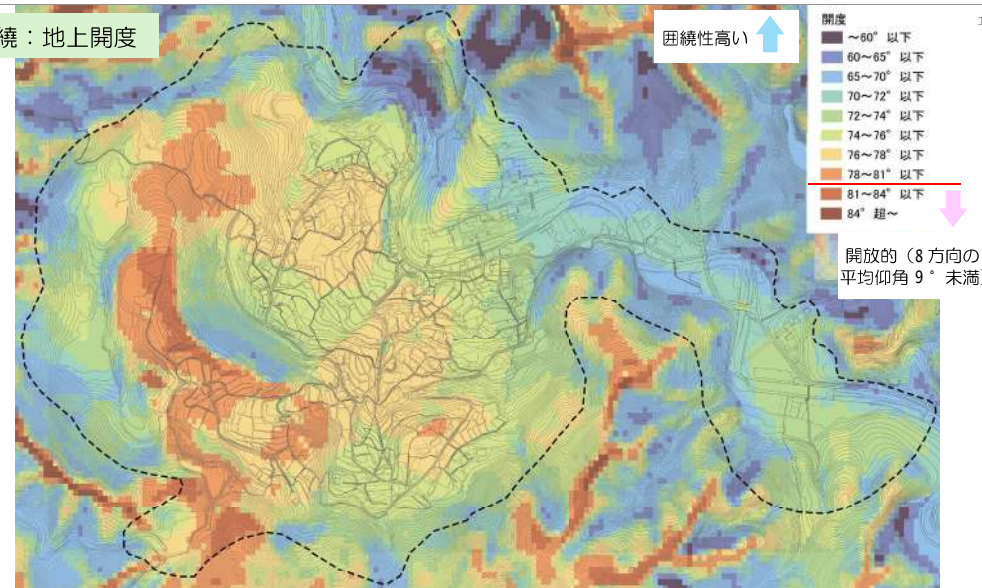
囲繞：仰角9° 以上の方向数

15



囲繞：地上開度

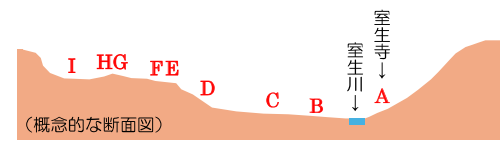
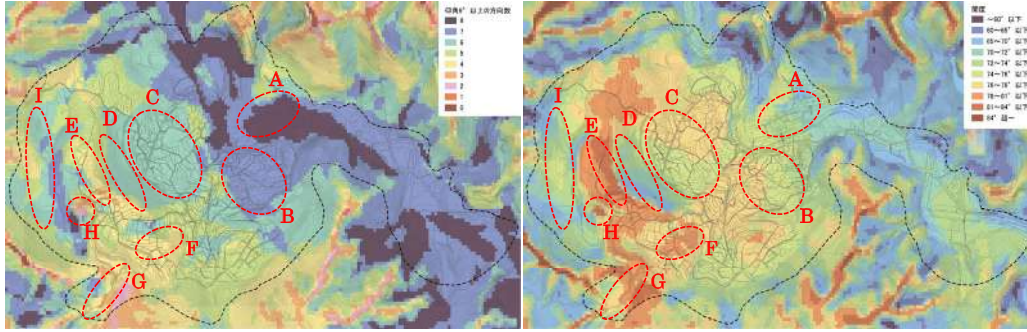
16



囲繞性の分析

【仰角9°以上の方向数】

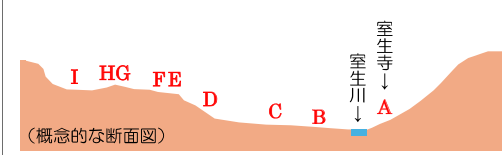
【地上開度】



- A: 室生寺周辺
- B: 緩斜面の居住地 (室生寺南側)
- C: 緩斜面の居住地 (室生寺西側)
- D: 急斜面の山林
- E: 急斜面上の居住地 (集落西側)
- F: 共同墓地周辺
- G: 唐見辻周辺
- H: 稲荷神社周辺
- I: 山上公園

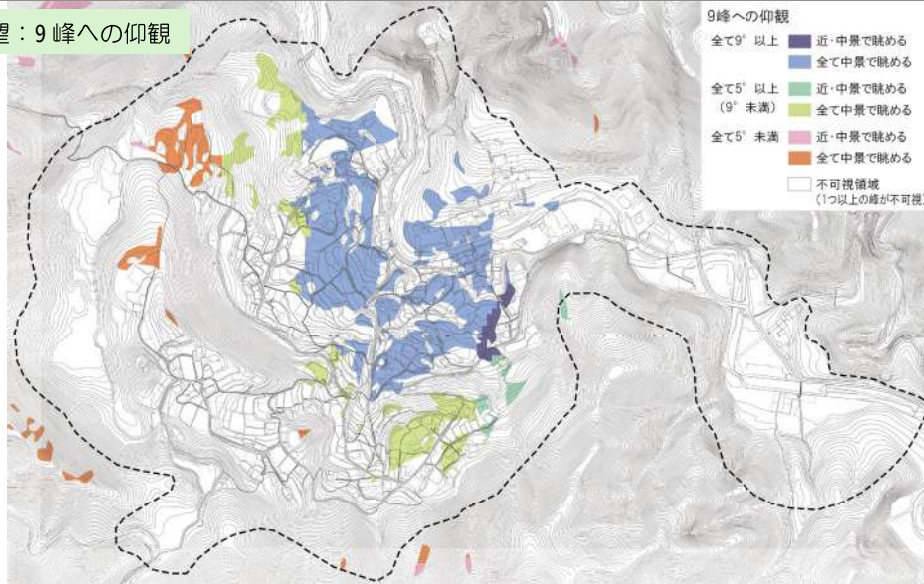
囲繞性の分析

場所	囲繞性の特徴
A 室生寺周辺	開度が低く、全方向の仰角9°以上... 集落の中でも特に囲繞性が高い
B 緩斜面の居住地(南)	開度は中程度、仰角9°以上が7方向... 囲繞性あり
C 緩斜面の居住地(西)	開度は中程度、仰角9°以上が6方向... 囲繞性あり、少し開けた方向あり
D 急斜面の山林	開度が特に低い、仰角9°以上が6方向... 高い囲繞性と、少し開けた方向あり
E 急斜面上の居住地(西)	開度が高い、仰角9°以上が4方向... 室生寺方向に開けて、反対は囲まれる
F 共同墓地周辺	開度やや高い、仰角9°以上が4方向... 室生寺方向に開けて、反対は囲まれる
G 唐見辻周辺	開度の高低と仰角9°以上の方向数が混在... 近い場所で囲繞性が細かく変化
H 稲荷神社周辺	開度の高低と仰角9°以上の方向数が混在... 近い場所で囲繞性が細かく変化
I 山上公園	開度低く、全方向の仰角9°以上... 特に囲繞性が高い(居住地と隔絶)

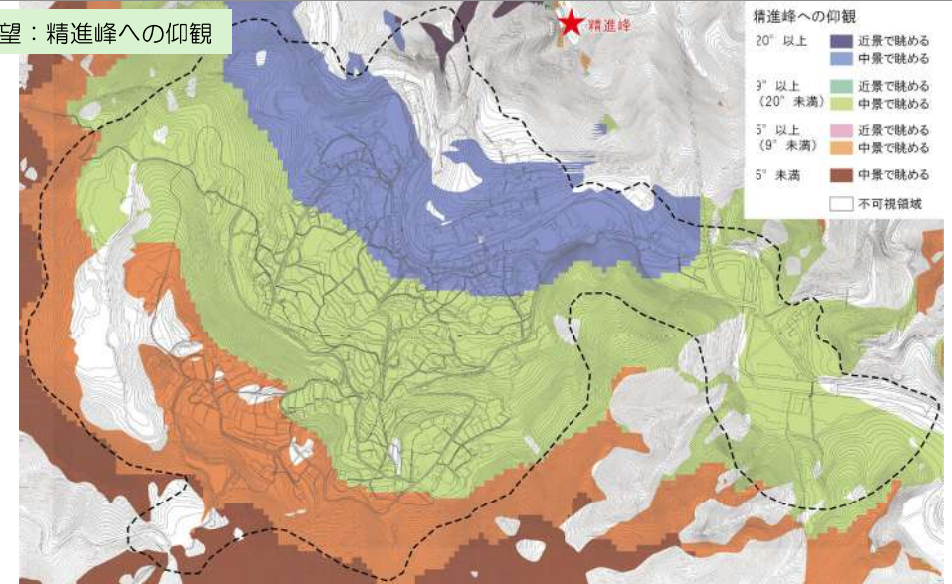


- A: 室生寺周辺
- B: 緩斜面の居住地 (室生寺南側)
- C: 緩斜面の居住地 (室生寺西側)
- D: 急斜面の山林
- E: 急斜面上の居住地 (集落西側)
- F: 共同墓地周辺
- G: 唐見峠周辺
- H: 稲荷神社周辺
- I: 山上公園

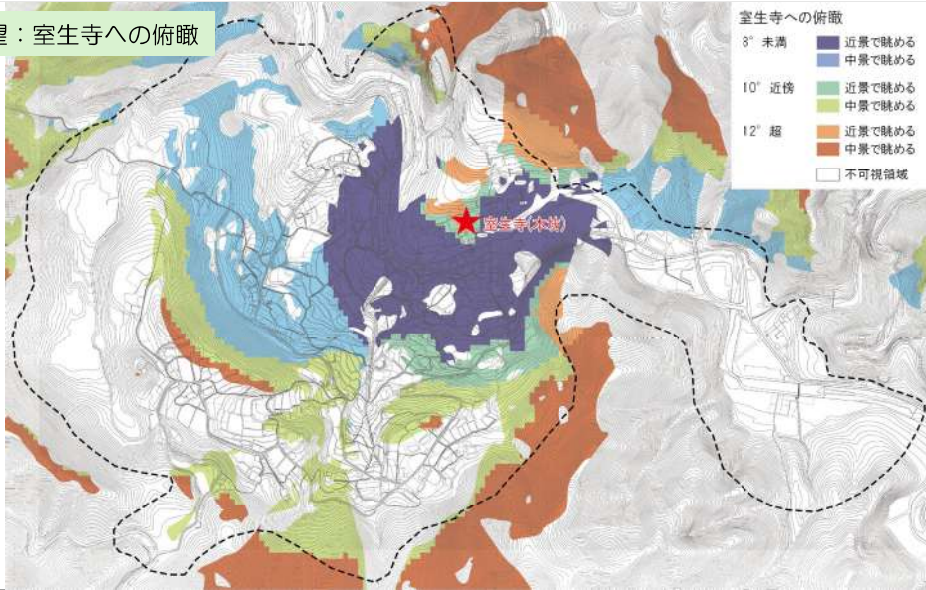
眺望：9峰への仰観



眺望：精進峰への仰観

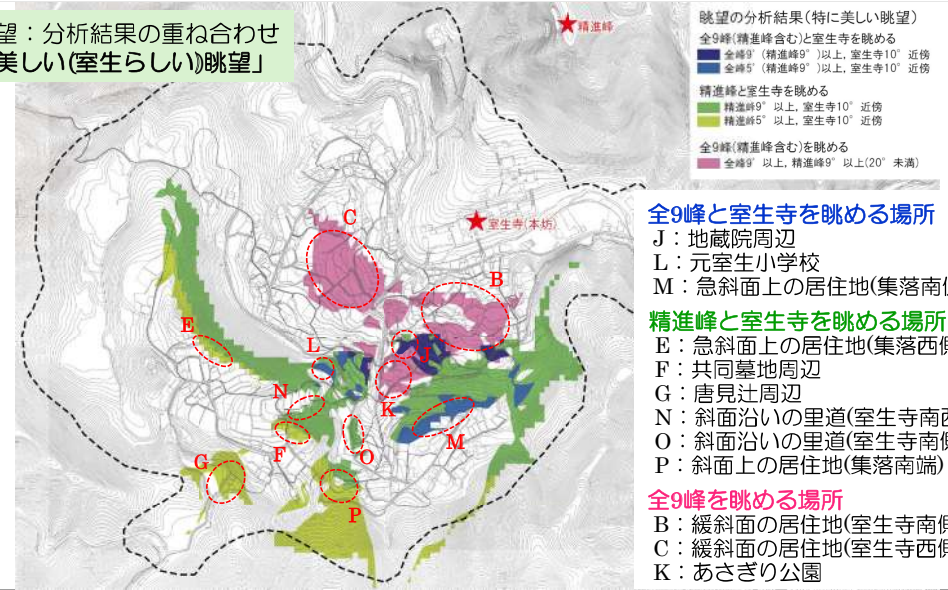


眺望：室生寺への俯瞰



21

眺望：分析結果の重ね合わせ
「美しい(室生らしい)眺望」



22

- 全9峰と室生寺を眺める場所**
 J：地蔵院周辺
 L：元室生小学校
 M：急斜面上の居住地(集落南側)
- 精進峰と室生寺を眺める場所**
 E：急斜面上の居住地(集落西側)
 F：共同墓地周辺
 G：唐見辻周辺
 N：斜面沿いの里道(室生寺南西)
 O：斜面沿いの里道(室生寺南側)
 P：斜面上の居住地(集落南端)
- 全9峰を眺める場所**
 B：緩斜面の居住地(室生寺南側)
 C：緩斜面の居住地(室生寺西側)
 K：あさぎり公園

J：地蔵院周辺



※室生寺は不可視

L：元室生小学校



※室生寺がかすかに見える

F：共同墓地周辺



※室生寺がかすかに見える

P：斜面上の居住地(集落南端)



※室生寺がかすかに見える

C：緩斜面の居住地(室生寺西側)



K：あさぎり公園



23

歴史的特徴：土地利用と街路の形成年代

○土地利用の時間的奥行きから景観の歴史的価値を評価

- ・景観の「時間的奥行き (Time-depth)」から歴史的価値を評価する歴史的景観キャラクタライゼーションの手法を適用
- ・複数年代の地図・地形図を用いて、土地利用の履歴と形成年代、街路の形成年代を特定

○入手・使用したデータ

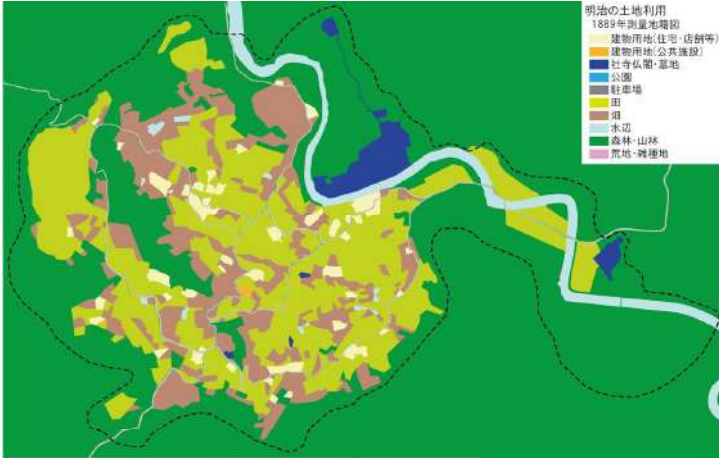
時代区分	使用した地図・地形図等	入手先
明治	1889 (明治22)年測量の地籍図 (宇陀郡室生村實測全圖)	宇陀市
戦後	1949 (昭和24)年測量の旧5万分の1 地形図	国土地理院
昭和中期	1963 (昭和38)年測量の室生村全図 (1万分1 地形図)	宇陀市
昭和後期	1985 (昭和60)年測量の5千分の1 地形図	奈良県
平成	2000 (平成12)年のゼンリン住宅地図	奈良県立情報図書館
現在	2020 (令和2)年のゼンリン住宅地図+現地調査	奈良県立情報図書館

24

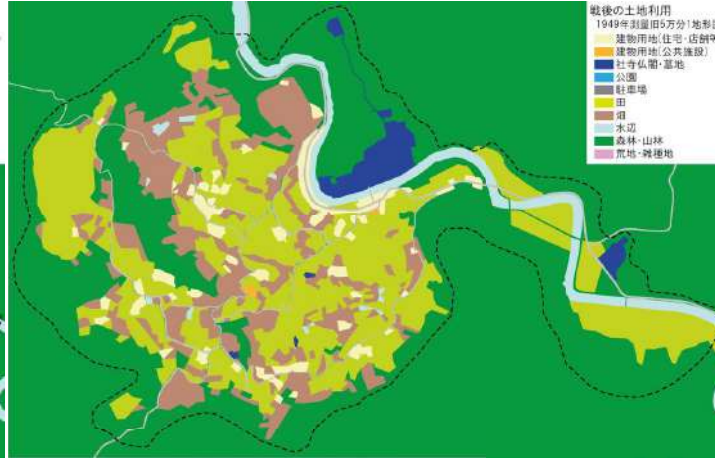
土地利用の履歴

- 建物用地(住宅・店舗等)
- 駐車場
- 水辺
- 建物用地(公共施設)
- 田
- 森林・山林
- 社寺仏閣・墓地
- 畑
- 荒地・雑種地
- 公園

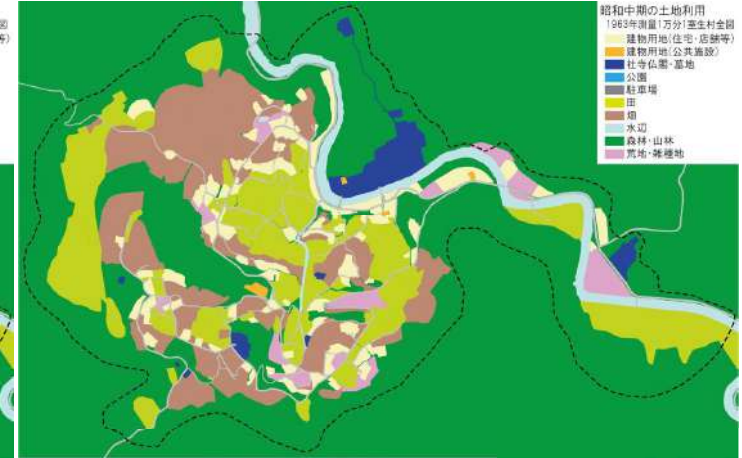
【明治】



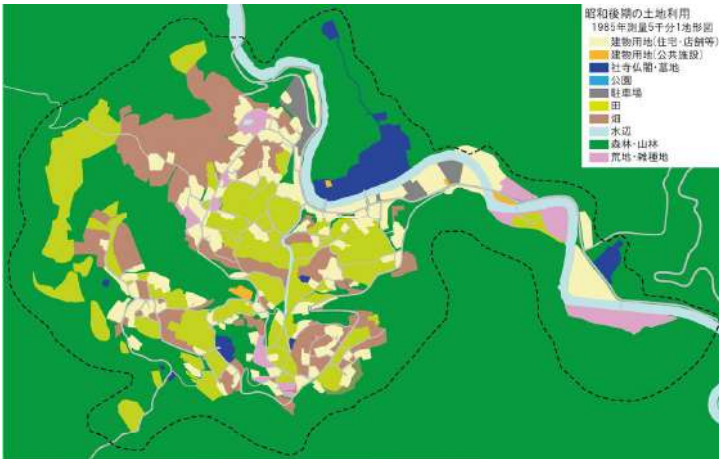
【戦後】



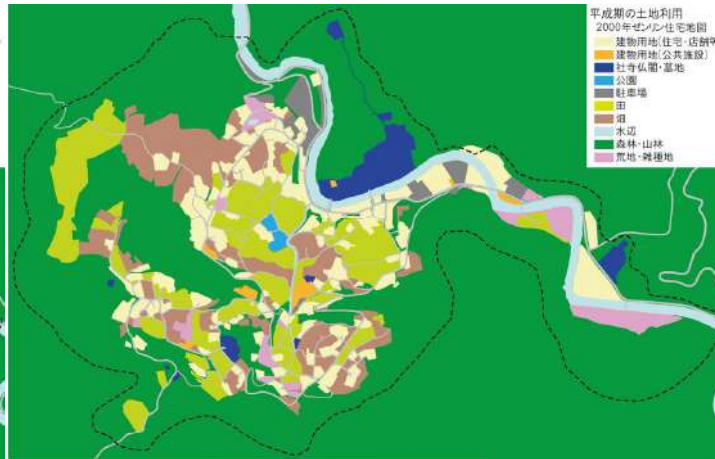
【昭和中期】



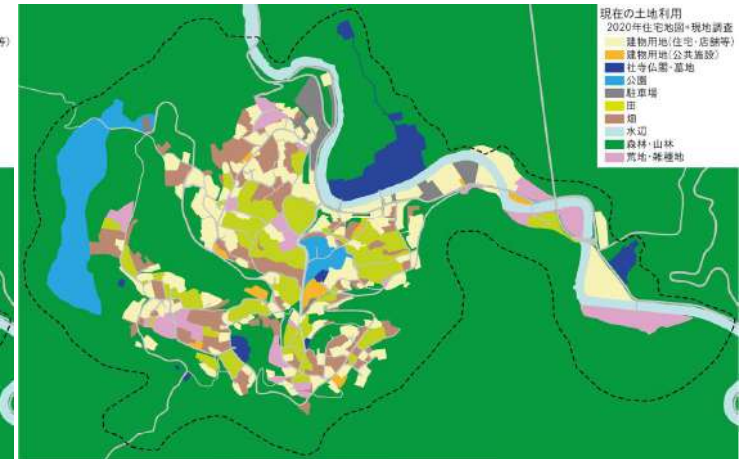
【昭和後期】



【平成】

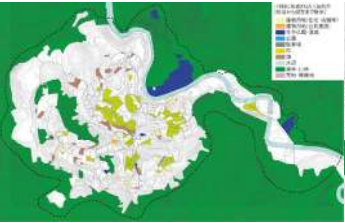


【現在】

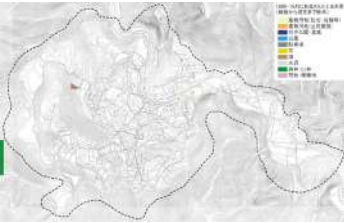


土地利用の形成年代（地目別）

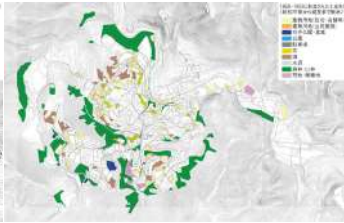
【明治】



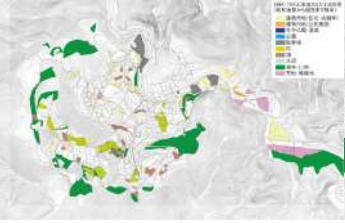
【戦後】



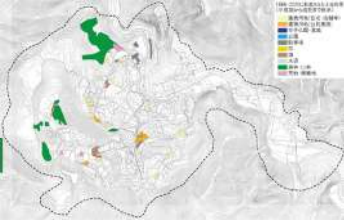
【昭和中期】



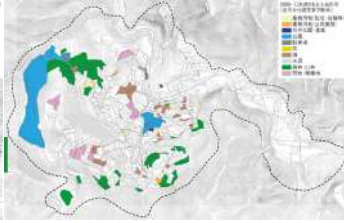
【昭和後期】



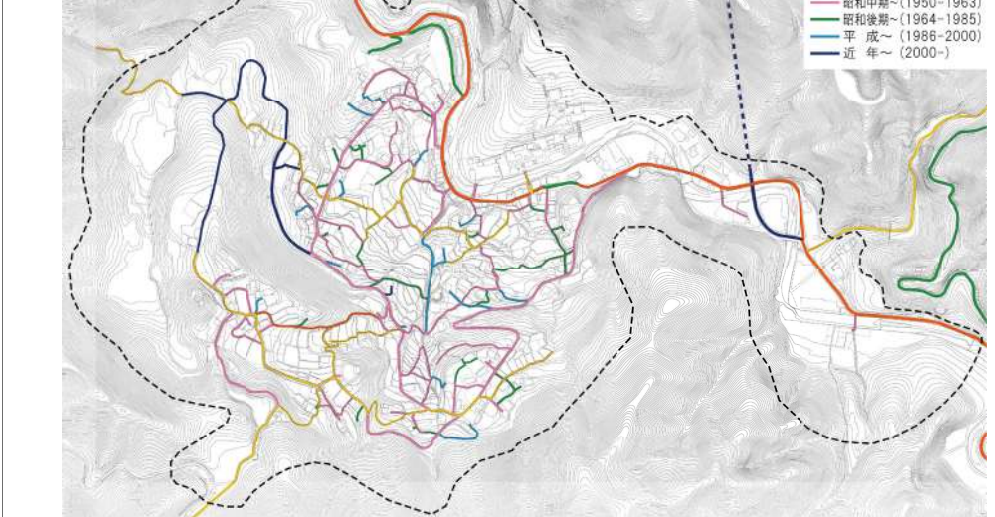
【平成】



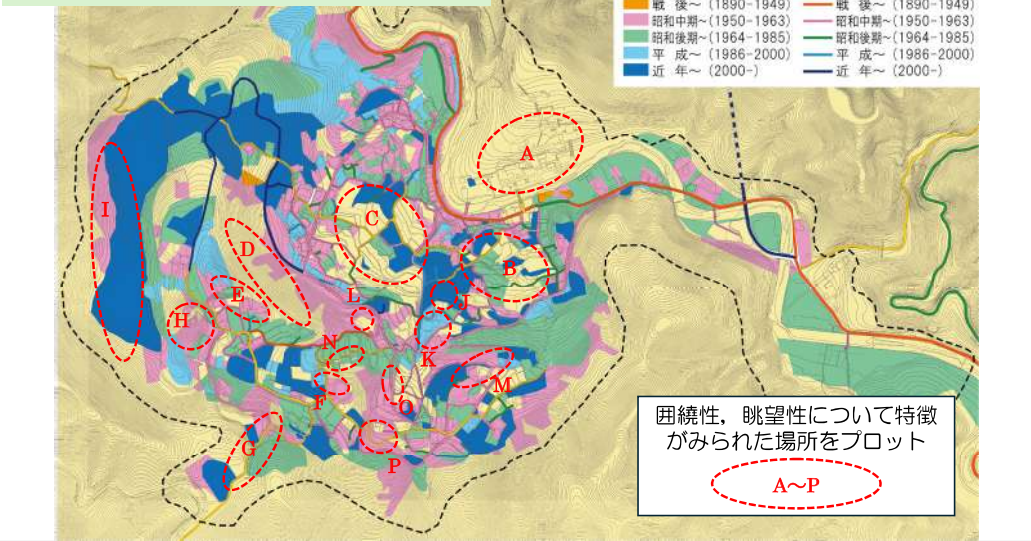
【現在】



街路の形成年代



囲繞性・眺望性と集落の形成年代との関係



囲繞性・眺望性と集落の形成年代との関係

⇒ 囲繞性や眺望性に特徴のある場所には、歴史ある場所が多い

	場所	囲繞性	眺望性	形成年代（主な場所）
A	室生寺周辺	特に囲繞性が高い	精進峰を仰ぐ	明治～/社寺
B	緩斜面の居住地(南)	囲繞性あり	全9峰を眺める	明治～/田
C	緩斜面の居住地(西)	囲繞性あり、少し開けた方向あり	全9峰を眺める	明治～/田
D	急斜面の山林	高い囲繞性と、少し開けた方向	精進峰と室生寺を眺める	明治～/山林
E	急斜面上の居住地(西)	室生寺へ開け、反対は囲まれる	精進峰と室生寺を眺める	昭和中期～/宅地
F	共同墓地周辺	室生寺へ開け、反対は囲まれる	精進峰と室生寺を眺める	昭和中期～/社寺
G	唐見辻周辺	近い場所で囲繞性が細かく変化	精進峰と室生寺を眺める	明治～/街路
H	稻荷神社周辺	近い場所で囲繞性が細かく変化	殆ど眺望できない	昭和中期～/社寺
I	山上公園	特に囲繞性が高い	殆ど眺望できない	近年～/公園
J	地藏院周辺	囲繞性ややあり、開けた方向あり	全9峰と室生寺を眺める	明治～/社寺
K	あさぎ公園	囲繞性ややあり、開けた方向あり	全9峰を眺める	平成～/公園
L	元室生小学校	囲繞性ややあり、開けた方向あり	全9峰と室生寺を眺める	明治～/宅地
M	急斜面上の居住地(西)	囲繞性あり、開けた方向あり	全9峰と室生寺を眺める	昭和中期～/宅地
N	斜面沿いの里道(南西)	囲繞性あり、開けた方向あり	精進峰と室生寺を眺める	明治～/街路
O	斜面沿いの里道(南)	囲繞性あり、開けた方向あり	精進峰と室生寺を眺める	昭和中期～/街路
P	斜面上の居住地(南)	囲繞性あり、開けた方向あり	精進峰と室生寺を眺める	明治～/宅地

社会的特徴：住民アンケート

○アンケートの概要

- 配布数：50世帯，集落全戸にポスティング ※
- 回収数：16世帯（回収率32.0%），22人
- 配布回収期間：2024.11.22～12.31

○アンケートの項目

- 集落内の「場所」への意識
 - ✓ お住まいの場所
 - ✓ 「大切だ」「大切だった」と感じる場所／大切な場所の状態／誰にとって大切か
- 「大切な場所」に対して抱く感情（安らぎ，癒し，誇らしさ，懐かしさ，神秘さ etc）
- その他，自由記述

※2020年国勢調査では室生集落の世帯数は100世帯である。調査票は，廃屋等を除く全戸に配布し，配布数は74であった。調査期間後に現地を確認し，ポストに放置されたままの調査票24を回収した。74から24を除く50が最終的な配布数である。

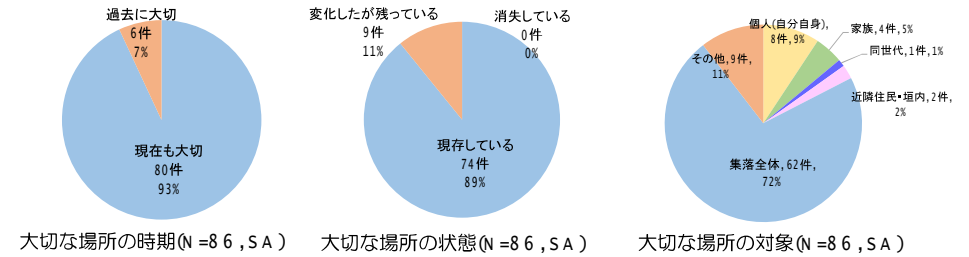
アンケート結果の概要

●「大切な場所」の箇所数，延べ件数

- 回答された「大切な場所」：27箇所 ... 龍穴神社(14人)，室生寺(12人)，西光寺(10人) etc.
- 回答された「大切な場所」延べ数：86件

●「大切な場所」の概要 (N = 86)

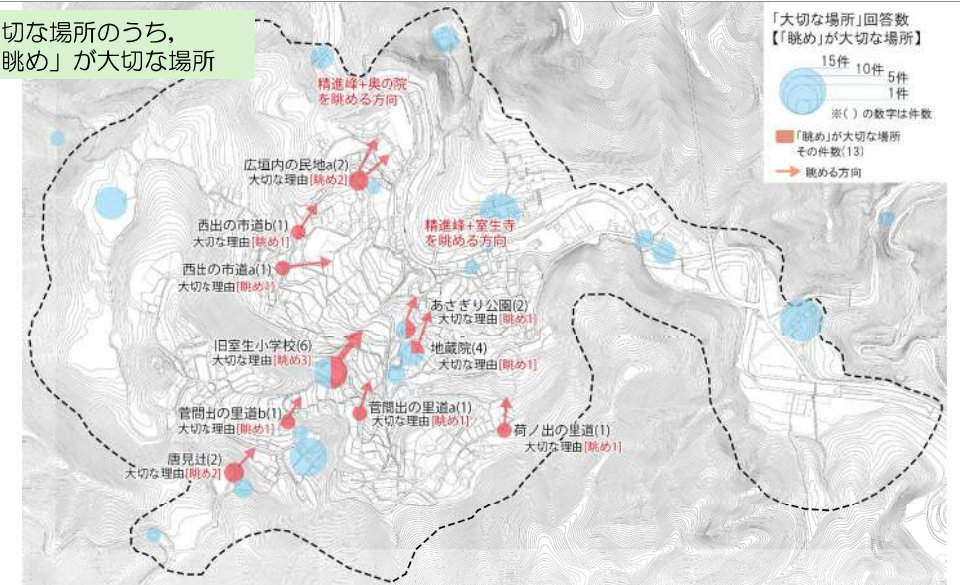
- 殆どの場所が，「現在も大切」と考えられており，「現存している」状態である。
- 多くの場所が，「集落全体」にとって重要と考えられている。【その他】の多くは「全国的」や「訪れる人全て」にとって重要とされた。ほか，「個人」や「家族」にとって重要な場所がある。



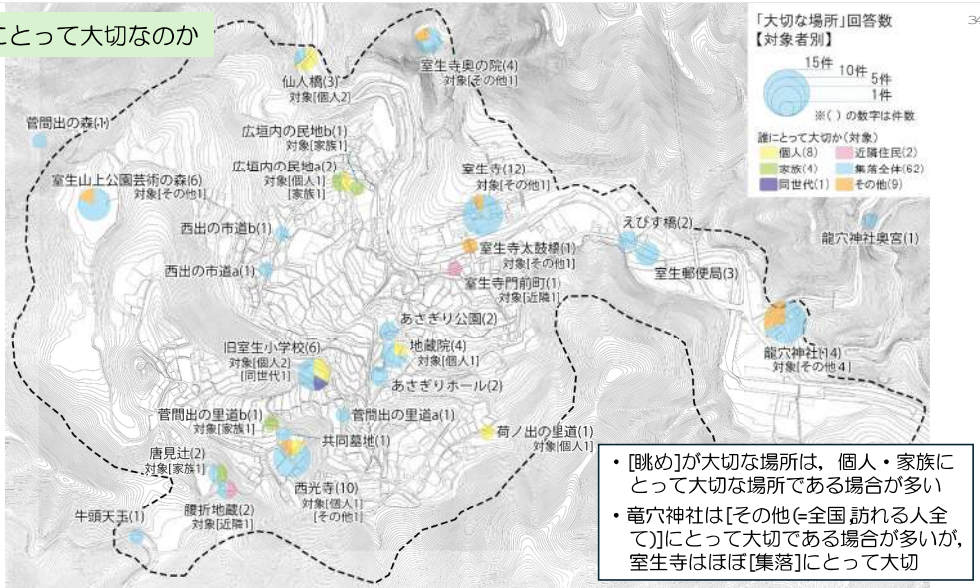
大切な場所の回答数



大切な場所のうち、「眺め」が大切な場所



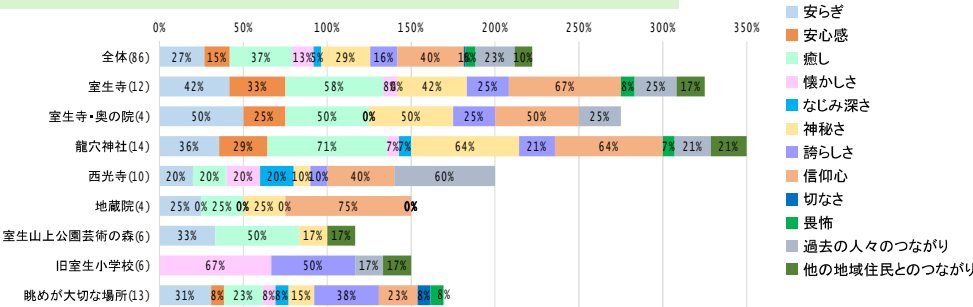
誰にとって大切なのか



「大切な場所」の視覚的特徴・歴史的特徴

	N	社会的特徴:アンケート	視覚的特徴(俯瞰)	視覚的特徴(眺望)	歴史的特徴
室生寺	12	対象:その他1	特に囲繞性が高い	全9峰を眺める。精進峰を仰ぐ	非常に古い(明治～の土地利用)
室生寺・奥の院	4	対象:その他1	囲繞性あり	殆ど眺望できない	非常に古い(明治～の土地利用)
室生寺・本殿橋	1	対象:その他1	囲繞性あり	全9峰を眺める。精進峰を仰ぐ	非常に古い(明治～の土地利用)
室生寺・門前町	1	対象:近隣1	囲繞性あり	殆ど眺望できない	非常に古い(明治～の土地利用)
龍穴神社	14	対象:その他4	囲繞性高い	殆ど眺望できない	非常に古い(明治～の土地利用)
龍穴神社・奥宮	1	—	非常に囲繞性高い	殆ど眺望できない	非常に古い(明治～の土地利用)
室生山上公園	6	対象:その他1	特に囲繞性が高い	殆ど眺望できない	新しい(近年～の土地利用)
西光寺	10	対象:個人1その他1	室生寺へ開けて反対は囲まれる	殆ど眺望できない	非常に古い(明治～の土地利用)
西光寺・共同墓地	1	—	室生寺へ開けて反対は囲まれる	精進峰と室生寺を美しく眺める	古い(昭和中期～の土地利用)
あさぎりホール	2	—	囲繞性あり少し開けた方向あり	全9峰を美しく眺める	やや新しい(平成～の土地利用)
あさぎり公園	2	眺望1	囲繞性あり少し開けた方向あり	全9峰を美しく眺める	新しい(近年～の土地利用)
地蔵院	4	眺望1、対象:個人1	囲繞性ややあり開けた方向あり	全9峰と室生寺を美しく眺める	非常に古い(明治～の土地利用)
旧小学校	6	眺望3、対象:個人1・同世代1	囲繞性ややあり開けた方向あり	全9峰と室生寺を美しく眺める	非常に古い(明治～の土地利用)
腰折れ地蔵	2	対象:近隣1	近い場所で囲繞性が細かく変化	精進峰と室生寺を美しく眺める	古い(昭和中期～の土地利用)
唐見辻	2	眺望2	近い場所で囲繞性が細かく変化	精進峰と室生寺を美しく眺める	非常に古い(明治～の土地利用)
牛頭天王	1	—	非常に囲繞性が高い	殆ど眺望できない	非常に古い(明治～の土地利用)
室生郵便局	3	—	特に囲繞性が高い	殆ど眺望できない	やや古い(昭和後期～の土地利用)
えびす橋	2	—	特に囲繞性が高い	殆ど眺望できない	非常に古い(戦後～の街路)
仙人橋	3	対象:個人3	特に囲繞性が高い	殆ど眺望できない	非常に古い(戦後～の街路)
菅間出の森	1	—	非常に囲繞性が高い	殆ど眺望できない	非常に古い(明治～の土地利用)
西出の市道a	1	眺望1	囲繞性あり少し開けた方向あり	精進峰を美しく眺める	古い(昭和中期～の街路)
西出の市道b	1	眺望1	囲繞性あり少し開けた方向あり	精進峰を美しく眺める	古い(昭和中期～の街路)
菅間出の里道a	1	眺望1	囲繞性あり開けた方向あり	精進峰と室生寺を美しく眺める	非常に古い(明治～の街路)
菅間出の里道b	1	眺望1、対象:家族1	室生寺へ開けて反対は囲まれる	精進峰と室生寺を美しく眺める	非常に古い(明治～の街路)
荷ノ出の里道	1	眺望1、対象:個人1	囲繞性あり開けた方向あり	精進峰と室生寺を美しく眺める	非常に古い(明治～の街路)
広埜内の民地a	2	眺望2、対象:個人1・家族1	囲繞性あり少し開けた方向あり	全9峰を眺める。精進峰を仰ぐ	やや新しい(平成～の土地利用)
広埜内の民地b	1	—	囲繞性あり少し開けた方向あり	全9峰を眺める。精進峰を仰ぐ	非常に古い(明治～の土地利用)

アンケート結果：場所に抱く感情 (回答件数の多かった場所ごとの感情)



- ・**室生寺(奥の院)**、**龍穴神社**: 「信仰心」「神秘さ」/「安らぎ」「安心感」「癒し」が多い
龍穴神社: 特に「神秘さ」「癒し」が多い... 神が棲む場所、(神によって)心が癒される場所
- ・**西光寺**: 「過去の人々とのつながり」「なじみ深さ」が多い/「神秘さ」や「癒し」少ない... 共同墓地に近く、身近な場所
- ・**地蔵院**: 「信仰心」が多いが、「神秘さ」少ない... 集落内の祈りの場所(⇔集落から切り離された室生寺・竜穴神社)
- ・**旧小学校**: 「懐かしさ」「誇り」が多い... 過去の体験、自分の所属に対する満足感
- ・**眺め**: 「誇り」が多い... 主観としての「眺め」、(切り離された)室生寺や精進峰を自分のものにする行為

まとめ

○視覚的特徴：囲繞性と眺望性

- ・**囲繞性**: 特に囲繞性の高い室生寺、囲繞性のある緩斜面、高い囲繞性と開けた方向のある急斜面、室生寺方面に開いた斜面上の台地、囲繞性が細かく変化する境界部 等によって集落が構成。
- ・**眺望性**: 集落を囲む全9峰と室生寺を眺められる場所、代表的峰である精進峰と室生寺を眺められる場所、全9峰を眺められる場所が存在。

○歴史的特徴：集落の形成年代

- ・非常に古い = 明治～の土地利用(主に緩斜面の田)及び街路、古い = 昭和中期～の土地利用(主に緩斜面上の宅地や田畑)及び街路が存在。近年～の土地利用は主に公園。
- ・集落周縁部は、時代を経て田畑が森林化、集落範囲の縮小。集落内の森林や荒廃地が増加。

○囲繞性・眺望性と集落の形成年代との関係

- ・**囲繞性**や**眺望性**に特徴のある場所には、歴史ある場所(明治・昭和中期～の土地利用や街路)が多い。
- Ex) 元室生小学校、地蔵院周辺、共同墓地周辺等は、古くからその場所で室生らしい眺望を臨める
⇒ 太古の昔、真言宗が室生寺を八葉蓮華の中心に見立て、その後、室生寺を眺める適地に公的な機能が付与されていた

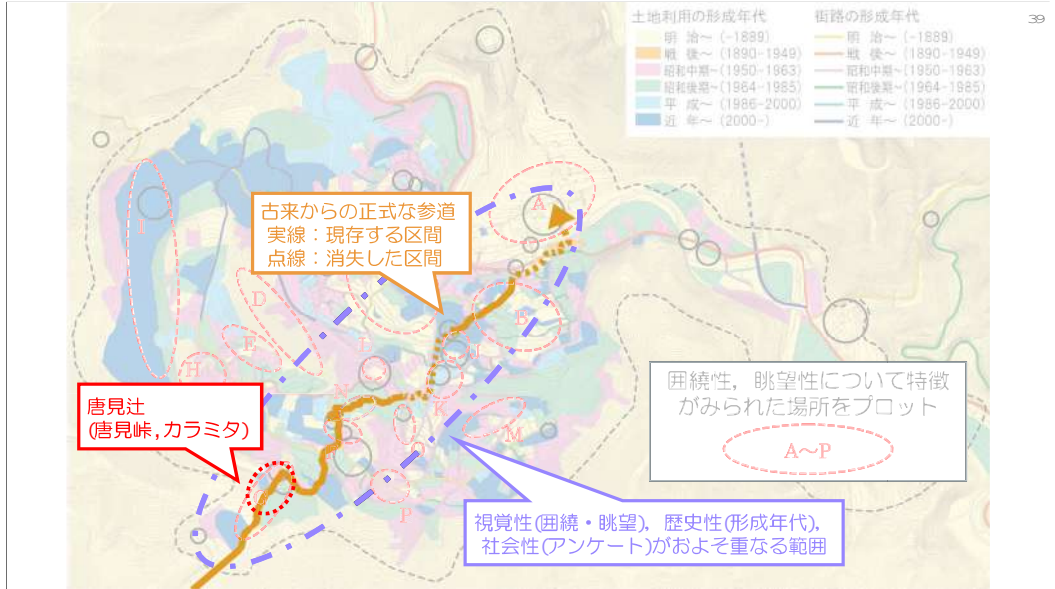
まとめ

○社会的特徴：アンケートによる「大切な場所」

- ・「大切な場所」の多くは、現存し現在も大切に、集落にとって大切な場所。
- ・「眺めが大切」と認識されている場所は、個人・家族にとって大切であるものが多い。
- ・龍穴神社は全国的又は訪れる人全てに対して大切と認識されるが、室生寺は集落にとって大切。

○「大切な場所」と囲繞性・眺望性・集落の形成年代との関係

- ・「眺め」が大切とされている場所は、独特の囲繞性 = 囲まれつつ開けた方向（主に室生寺方向）を有し、実際に眺望性が高い（精進峰や室生寺を美しく眺められる）。
- ・場所そのものが大切にされている場所（眺めが大切とはされていない）は、囲繞性が高い。
- ・アンケートで大切とされた場所は、非常に古い・古い場所が多く、歴史がある。
- ・場所に対する感情は、**場所の固有性**による
 - ... 宗教性から心の安寧をもたらす室生寺と龍穴神社、中でも神が棲み心が癒される龍穴神社、過去の人々とのつながりを感じる西光寺(共同墓地)、集落内の身近な信仰の場としての地藏院、自分自身の体験や所属意識に基づき、懐かしさや誇りを想起する旧小学校
 - ... **眺めと「誇り」**：主観としての眺め、集落から切り離された室生寺や精進峰を自己化する行為



唐見辻周辺

- ・囲繞性：細かく変化する（参道を経て、視界が突然に室生寺方向へ開ける）
- ・眺望性：精進峰と室生寺を美しく眺められる
- ・形成年代：明治～（非常に古い）
- ・アンケート：眺めに関する回答あり

唐見辻(唐見峠, カラミタ)の由来

「弘法大使が全く『唐を見たよう』と言った」ことによると伝承される

大和國室生山一覽之圖
出版時期等不詳
図の最下部・中心に「唐見辻」
「弘法大師御詠...」とある



唐見辻からの現在の眺め（杉が育って遮蔽されている）

